

## 治療法概論

## (1) 心か身体か？

① 心と身体の治療のバランス：  
治療者、本人、家族の見立ての違い

摂食障害は、「やせ願望やストレスが原因で生じる心の病気」と一般メディアでは論じられています。確かに、摂食障害はストレスに関連が強い疾患ですが、心のケアだけでは治療が進まない場合もあるところに難しさがあります。症状は身体にもあらわれるので、身体への治療を重点的に行うことが必要な時期もあります。実際の診療では、心と身体の治療のどちらを優先すべきか、という基本的な点において、患者さん本人、ご家族、治療者の考えが違って混乱することがあります。例えば、次のような状況はよく目にします。

《状況1》 かなりの低栄養状態で入院となったケースで、担当医が諸検査の後、中心静脈栄養を行う計画を示したところ、家族は「心のケアがない」と不満に思い、退院させようとする。あるいは、点滴はやめて欲しいと担当医に懇願する。

《状況2》 過食嘔吐の治療のために精神科のクリニックを受診したが、薬物を処方されるだけで、症状や家族との関係については何も話ができないと不満に思う。

《状況3》 子どもの頃のトラウマ体験など、病

気の原因と思うことをノートに書いていって必死の思いで精神科を受診したのに、医師は体重や月経のことばかり聞くので戸惑う。

《状況4》 治療者から見ると、明らかに不安からくる息苦しさなのに、家族が頻繁に救急外来（内科）を受診させる。

《状況5》 過食嘔吐を治したいと思って精神療法クリニックを受診した時点では体重が十分あり、医療機関にはかかっていなかった。その後、急に体重が減り始めたが、本人は体調は悪くないと主張し、体重も測らず医療機関も受診しない。

《状況6》 体重も低く抑うつ的な患者さんを内科病棟に入院させるか精神科病棟に入院させるかについて、同じ病院の中で意見が分かれる。

基本的原則としては、摂食障害は、どの時期においても心の治療と身体の治療の両方が必要です。もちろん、両方に全く同じ時間をかけなくてはいけないというわけではありません。身体が安定していれば、身体へのケアとしては「何ヵ月かに一度採血」くらいですむ場合もあります。重要なのは、どちらかが全くゼロになるのは望ましくないということです。心の治療も身体の治療も、重症になるほど専門的な治療が必要になるので、両方を一人の治療者が完璧に行うことは難しいでしょう。